

皇居外苑濠 濠別管理方針

<濠別管理方針の位置づけ>

皇居外苑管理事務所の管轄する 12 の濠はそれぞれ異なる特性を持つため、適切で効率的な外苑濠の管理のためには、各濠の現状や特性に応じた管理方針を定めることが有効である。

本方針は、皇居外苑濠管理方針（案）に準拠し、皇居外苑管理事務所が管轄する 12 の濠それぞれを「景観」、「水質」、「生き物」、「利用」等の観点から整理し、日常における管理行動の指針とするものである。なお、本方針は、今後の状況の変化に応じて、適宜、見直しを図るものとする。

P.2 に全 12 濠に共通する管理方針、P.3 以降に濠別の現状・特性・管理方針（特筆事項）を示した。

目次		
桔梗濠	…	p.3
蛤濠	…	p.4
桜田濠1	…	p.5
桜田濠2	…	p.6
半蔵濠	…	p.7
千鳥ヶ淵	…	p.8
牛ヶ淵	…	p.9
清水濠	…	p.10
大手濠	…	p.11
和田蔵濠	…	p.12
馬場先濠	…	p.13
日比谷濠	…	p.14
凱旋濠	…	p.15

※ 桜田濠は、上流部と下流部の特性が異なるため 2 つの地区に分けて扱った



皇居外苑および外苑濠の概略平面図

皇居外苑濠 全 12 濠に共通する管理方針

【全体的事項】

項 目	管 理 の 目 標	取 り 組 み
象徴性	○平和的文化的国家の象徴として、皇居の前庭という特別な性格を有する国民公園の厳かさ、穏やかさ、静けさを併せ持った品格を維持	○これまで継承してきたものを維持 ○アオコの異常発生は、象徴性を損ねるおそれがあるため、水質の改善を推進
諸側面	○江戸城址の遺構の保存 ○江戸城を中心とした歴史と文化の積み重ねを伝える景観を保全、継承	○現状の保護に努めつつ、継承すべき事柄の現状把握、必要な補修、修復を実施 ○樹木の成長に対応した植生管理を実施。特に、日比谷濠などの石垣保全のため、将来的に石垣上の樹林のセットバック等を実施
	○都心部にあって貴重な水と緑の環境を維持 ○濠が本来有している生物の生息・生育環境を修復 ○外苑の特性を損なわない範囲で、来苑者に魅力を伝達	○生息環境の確保、利用対応、都市環境の緩和などについては、象徴性、歴史性を損ねない範囲で実施
その他	—	○情報提供による国民、関係者の共通認識、各主体との連携の推進 ○濠毎に管理方針を作成し、具体的な管理に活用 ○本方針は中長期的な方針とし、必要に応じ見直しの実施

【個別的事項】

項 目	管理の目標	取 り 組 み
景観	○象徴性の確保、歴史の継承に係る景観について、現状の保全を基本に、植生管理、眺望点確保、遺構の補修、修復等により、良好な景観を目指す ○アオコによる景観上の支障が生じない管理 ○自然景観は、象徴性、歴史性への調和を図りつつ、生物相の豊かさが反映された自然景観を目指す ○都市の中の景観として、安らぎの場としての景観、光、音環境にも配慮。光環境、音環境についても、皇居の特性に調和した静謐さ、品格のある環境を目指す	○濠への眺望は、警備、安全面等の調整の上で、可能な限り濠側の眺望を確保 ○適切な水生植物の管理について景観面からの方針の整理 ○堤塘の草地を維持するため、定期的な草刈りの実施。草地の生物相への配慮についても検討 ○千鳥ヶ淵の桜について将来の方針についての知見の蓄積 ○工作物等は、一時的なものを含め、必要最小限とする

【個別的事項】

項 目	管理の目標	取 り 組 み
生き物	○象徴性、歴史性に配慮しつつ、水質悪化や外来種侵入以前の生息・生育環境の復元を推進 ○現在生息している在来魚類、は虫類・両生類、ヘイケボタル、多様なトンボ類などの水生昆虫、ツツイトモなどの水生植物、カモ類などの多様な生物が全体として継続して生息・生育できる環境を保全 ○石垣、堤塘の生物について、希少な種の保全と生物の生息環境の改善の実施 ○特別の理由がない限り、外からの生物の導入は行わない	○皇居の特性を損ねずに生息・生育環境を改善する手法についての知見集積と具体化 ○ブラックバス等の駆除を行い、在来生物相に大きな影響を与えないような制御の実施 ○各濠において、目指すべき状況等を検討し。生物への影響の懸念される外来種やコイは、捕獲した場合は原則濠に戻さない。ソウギョなどは、濠の水生植物の管理方針の中で検討 ○鳥類は、音、光などにより不用意に急激な環境変化を生じないように配慮 ○ヘイケボタル、トンボ類など注目すべき種の生息については、実態を具体的に把握し、生息環境の維持についての知見の集積 ○水生植物については、今後、景観、水質への影響との調整を図りつつ、豊かな生息環境を確保するための管理方法の検討 ○堤塘や石垣などについても、生物の生息に配慮した管理等の知見の集積
その他	公園利用の場、都市環境の緩和などの機能について、皇居外苑の特性を損ねないように配慮しつつ、機能を維持、改善	来苑者に皇居外苑濠の魅力について適切に伝わるような利用施設の整備、維持管理、情報提供の実施 クールアイランドとしての機能を発揮できるような方策についての知見の集積

桔梗濠 ～江戸城の面影が強く残る、東御苑へのアプローチ～

● 濠の特性

本濠の北側は東御苑の入り口である大手門に接し、南側は皇居前広場の一部を形成しており、これらと一体的に**象徴的な空間**を形成している。(象徴・景観)

また、皇居側の濠端に翼櫓と桔梗門、奥手に富士見櫓を控え、さらに江戸城の正門であった大手門の存在により、**高い歴史性**を感じさせる。(歴史・景観)

象徴性保持の観点から、濠水の清冽さの確保のため、**水質保全に特に留意**する必要がある。(景観・水質)

大手濠と蛤濠の二濠からの水の流れの合流点にあたり、**通水上重要な箇所**である。ただし、**大手濠との接続部では構造上、濠水の流動が阻害**されている。(水質)

東御苑利用者や皇居一般参観者の移動経路沿いにあり、また人と水面との距離が近く、見通しも良いため、**水面が多くの人目に付きやすい濠**である。(景観)
水質が比較的良好で、かつブラックバス等が侵入していない濠である。(生物)



● 濠の現状 (H22.3 時点)

【諸元】

全長(m)	面積(m ²)	平均濠幅(m)	水深(m)	湛水量(m ³)	水面標高(TP・m)
395	16,355	41	0.8	13,000	1.87

【景観】

景観要素の分類	歴史的・文化的	水と緑	都市
濠自身の景観要素	石垣	濠水面・石垣上の樹木	—
濠周囲の景観要素	大手門・桔梗門・翼櫓・富士見櫓	濠端のクロマツ、芝生・皇居外苑のクロマツ、芝生、砂利	周囲のビル群・皇居外周の歩道、車道
主な視点場	沿岸車歩道・皇居外苑・桔梗門前・大手門前		

【水質】

pH ^{*1}	懸濁物質(mg/L) ^{*1}	クロロフィルa(μg/L) ^{*1}	大腸菌群数(MPN/mL) ^{*1}	溶存酸素(mg/L) ^{*1}
8.1 (8.25) ^{*2}	11.9 (13.2) ^{*2}	17.6 (33.6) ^{*2}	61.8 (61.2) ^{*2}	8.9 (7.5) ^{*2}
COD(mg/L) ^{*1}	透明度(m) ^{*1}	T-N(mg/L) ^{*1}	T-P(mg/L) ^{*1}	アオコ発生頻度 ^{*3}
5.56 (6.84) ^{*2}	0.64 (0.6) ^{*2}	0.85 (0.81) ^{*2}	0.05 (0.05) ^{*2}	A

*1: H12～H21 定期水質調査結果の全平均 (「-」: 調査実施なし), *2: ()内…H12～H21 定期水質調査結果の各年 8 月値平均 (「-」: 調査実施なし)

*3: アオコ観測調査 135 日(H21.6.27～11.11)中の発生日数 10 日以下:A、11～20 日:B、21 日以上:C

【生き物】(全出現種: 巻末資料参照)

	出現種 ()内: 最終確認年度
希少種	【魚 類】ジュズカケハゼ ^{*8} (H20)・ウナギ ^{*7} (H20)・ナマス ^{*8} (H20 ク)・ウキゴリ ^{*7} (H20)・ヌマチチブ ^{*8} (H20) 【植 物】ツツイトモ(H19) ^{*4}
特定外来生物	【魚 類】オオクチバス(H19)・ブルーギル(H20)・カタヤシ(H18)【両生類】ウシガエル(H19)

*4: 絶滅危惧Ⅱ類(環境省 RL), *5: 準絶滅危惧(環境省 RL), *6: A ランク(東京都 RL(区部)), *7: B ランク(東京都 RL(区部)), *8: C ランク(東京都 RL(区部))

*9: A ランク(東京都 RL(東部)), *10: B ランク(東京都 RL(東部)), *11: C ランク(東京都 RL(東部))

【利用】

利用形態	皇室関係行事(信任状捧呈式馬車列など)・観光・散策・ジョギング・水鳥観察
------	--------------------------------------

● 管理方針(各濠の特筆事項)

- ・象徴的・歴史的景観の質の低下につながる構造物の設置は控える。(象徴性・歴史性)
- ・水面は多くの人々の注目を受けやすいため、水面のアオコ、ゴミ、落葉等の除去は重点的に行う。(象徴性・景観)
- ・和田倉濠との接続部は、通水性確保のために、閉塞の原因となる落葉やゴミの除去を特に重点的に行うとともに、濠間の施設の改修等について検討を行う。(水質)
- ・ブラックバス等の駆除を引き続き実施する(生物)

蛤濠

～濠端に整然と立ち並ぶクロマツが印象的な、奥深さを感じさせる濠～

● 濠の特性

本濠は、皇居前広場の一部であるとともに、皇居と隣接して両者を区切る位置にあり、皇居前広場の濠端に整然と並ぶクロマツとともに、厳かな**象徴性の高い景観を形成している**。(象徴・景観)

外苑濠の中でも奥まった位置にあり、折れ曲がった先が見えない形状をしているため、奥深さを感じさせ、**象徴性を増している**。また、石垣と桔梗門、坂下門の二つの門の存在が、**歴史を感じさせる景観**を作り出している。(歴史・景観)

象徴性保持の観点から、濠水の清冽さの確保のため、**水質保全に特に留意する**必要がある。なお、**水質は外苑濠の中で比較的良好**である。(水質)

東御苑と二重橋間の移動経路沿いにあり、人と水面との距離が近く、見通しも良いため、**水面が多くの人目に付きやすい濠**である。(景観)

● 平面図・写真



● 濠の現状 (H22.3 時点)

【諸元】

全長(m)	面積(m ²)	平均濠幅(m)	水深(m)	湛水量(m ³)	水面標高(TP・m)
410	14,664	36	0.9	13,000	2.37

【景観】

景観要素の分類	歴史的・文化的	水と緑	都市
濠自身の景観要素	石垣	濠水面・石垣上の樹木	—
濠周囲の景観要素	桔梗門・坂下門・宮内庁舎	濠端のクロマツ、芝生・皇居外苑のクロマツ、芝生、砂利敷	周囲のビル群
主な視点場	皇居外苑		

【水質】

pH* ¹	懸濁物質(mg/L)* ¹	クロロフィルa(μg/L)* ¹	大腸菌群数(MPN/mL)* ¹	溶存酸素(mg/L)* ¹
8.3 (8.5)* ²	8.6 (13.3)* ²	19.3 (36.4)* ²	20.9 (63.4)* ²	9.7 (7.9)* ²
COD(mg/L)* ¹	透明度(m)* ¹	T-N(mg/L)* ¹	T-P(mg/L)* ¹	アオコ発生頻度* ³
5.6 (7.8)* ²	0.81 (0.77)* ²	0.79 (0.74)* ²	0.04 (0.05)* ²	—

*1: H12～H21 定期水質調査結果の全平均 (「-」: 調査実施なし), *2: ()内…H12～H21 定期水質調査結果の各年 8 月値平均 (「-」: 調査実施なし)

*3: アオコ観測調査 135 日(H21.6.27～11.11)中の発生日数 10 日以下:A、11～20 日:B、21 日以上:C

【生き物】(全出現種: 巻末資料参照)

	出現種 ()内: 最終確認年度
希少種	【魚 類】ジュス`カケハゼ` (H20)* ⁸ ・ウナギ` (H20)* <sup>7</sup> ・ナマス` (H12)* ⁷ ・ウキコ` (H20)* <sup>7</sup> ・ヌマチチブ` (H20)* ⁸
特定外来生物	確認なし

*4: 絶滅危惧Ⅱ類(環境省 RL), *5: 準絶滅危惧(環境省 RL), *6: A ランク(東京都 RL(区部)), *7: B ランク(東京都 RL(区部)), *8: C ランク(東京都 RL(区部))

*9: A ランク(東京都 RL(東部)), *10: B ランク(東京都 RL(東部)), *11: C ランク(東京都 RL(東部))

【利用】

利用形態	皇室関係行事(国民祭典、信任状捧呈式馬車列など)・観光・散策・水鳥観察
------	-------------------------------------

● 管理方針(各濠の特筆事項)

- ・象徴的・歴史的景観の質の低下につながる構造物の設置は控える。(象徴性・歴史性)
- ・水面は多くの人々の注目を受けやすいため、水面のアオコ、ゴミ、落葉等の除去は重点的に行う。(象徴性・景観)
- ・外来生物の侵入防止を図る。(生物)

桜田濠 1（皇居外苑沿い区間） ～皇居を代表する象徴的景観を形成する濠～

● 濠の特性

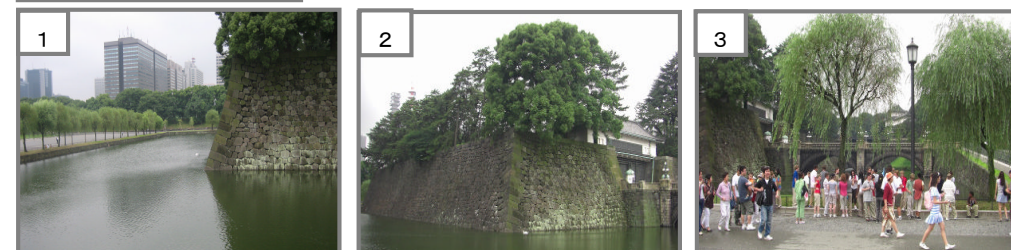
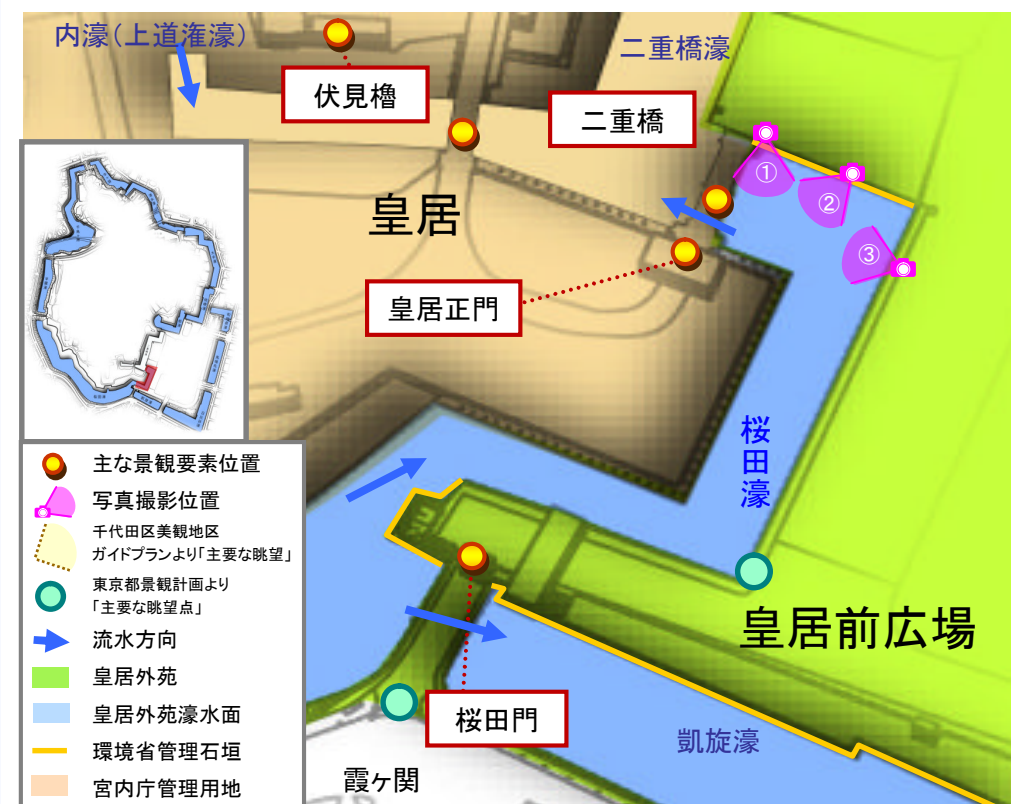
皇居正門前に位置しており、皇居外苑濠の中でも極めて高い象徴性を備えた濠である。また、濠と皇居正門（西の丸大手門）、二重橋、伏見櫓などが調和し、優れた歴史的景観を形成している。（象徴・歴史・景観）

濠自体の象徴性が高く、内濠である二重橋濠と連続しているため、象徴性の保持が特に重要となる。そのため、清冽な濠水確保のための水質保全や美観の保全に特に留意する必要がある。なお、水質は外苑濠の中でも比較的良好である。（景観・水質）

皇居外苑において最も有名な観光スポットのひとつであり、当濠周辺で記念撮影をする観光客が非常に多い。（景観）

水質が比較的良好で、ブルーギル等が侵入していない濠であり、沈水植物の生育も見られ、比較的良好な生物生息環境にある。（生物）

● 平面図・写真



● 濠の現状 (H22.3 時点)

【諸元】(桜田濠全体)

全長(m)	面積(m ²)	平均濠幅(m)	水深(m)	湛水量(m ³)	水面標高(TP・m)
1,450	96,780	67	1.6	152000	3.82

【景観】

景観要素の分類	歴史的・文化的	水と緑	都市
濠自身の景観要素	石垣	濠水面・石垣上の樹木	—
濠周囲の景観要素	二重橋・皇居正門・伏見櫓	濠端のシダレヤナギと芝生・皇居外苑のクロマツ、芝生、砂利	周囲のビル群・皇居外周の歩道、車道
主な視点場	皇居外苑(特に二重橋前付近)		

【水質】(桜田濠全体)

pH ^{*1}	懸濁物質(mg/L) ^{*1}	クロロフィルa(μg/L) ^{*1}	大腸菌群数(MPN/mL) ^{*1}	溶存酸素(mg/L) ^{*1}
8.6 (8.7) ^{*2}	5.9 (8.0) ^{*2}	14.0 (25.8) ^{*2}	6.9 (15.3) ^{*2}	11.0 (9.3) ^{*2}
COD(mg/L) ^{*1}	透明度(m) ^{*1}	T-N(mg/L) ^{*1}	T-P(mg/L) ^{*1}	アオコ発生頻度 ^{*3}
5.7 (8.2) ^{*2}	1.29 (1.00) ^{*2}	0.69 (0.59) ^{*2}	0.02 (0.03)	A

*1: H12～H21 定期水質調査結果の全平均 (「-」: 調査実施なし), *2: ()内…H12～H21 定期水質調査結果の各年 8 月値平均 (「-」: 調査実施なし)

*3: アオコ観測調査 135 日(H21.6.27～11.11)中の発生日数 10 日以下:A, 11～20 日:B, 21 日以上:C

【生き物】(桜田濠全体, 全出現種: 巻末資料参照)

	出現種 ()内: 最終確認年度
希少種	【魚 類】ジュス`カケハセ` (H20) ^{*8} ナマス` (H20) <sup>*7</sup> ウキゴリ (H20) <sup>*7</sup> スマチチブ` (H20) ^{*8} 【植 物】ツツイトモ (H19) ^{*4} エビ`モ (H19) ^{*11}
特定外来生物	確認なし

*4: 絶滅危惧Ⅱ類(環境省 RL), *5: 準絶滅危惧(環境省 RL), *6: A ランク(東京都 RL(区部)), *7: B ランク(東京都 RL(区部)), *8: C ランク(東京都 RL(区部))

*9: A ランク(東京都 RL(東部)), *10: B ランク(東京都 RL(東部)), *11: C ランク(東京都 RL(東部))

【利用】

利用形態	皇室関係行事(一般参賀、国民祭典、信任状捧呈式馬車列など)・観光・散策・水鳥観察
------	--

● 管理方針(各濠の特筆事項)

- ・象徴的・歴史的景観の質の低下につながる構造物の設置は控える。(象徴性・歴史性・景観)
- ・水面は多くの人の注目を受けやすいため、水面のアオコ、ゴミ、落葉等の除去は重点的に行う。(象徴性・景観)
- ・二重橋手前の柳については、周囲の景観と調和する自然な樹形を保ちつつ、皇居正門、二重橋、伏見櫓への眺望を確保できるよう、適切に剪定を行う。(象徴性・景観)
- ・外苑濠で最上流に位置し、外苑濠の中でも豊かな生物層を持つことから、外来生物の侵入・繁殖の防止を重点的に行う。(生物)

桜田濠 2（内堀通り沿い区間） ～堤塘斜面がダイナミックに連なる雄大な眺望の濠～

● 濠の特性

皇居、半蔵門と隣接しているため、**象徴性の高い濠**である。江戸城遺構の堤塘の連なる景観が、**歴史性**を醸し出している。（**象徴・歴史・景観**）

濠面積は外苑濠の中で最大で、上下流間での高低差も大きい。堤塘には、都心部では貴重な草地在り、**雄大で開放感のある眺望**を生み出している。一方、一部では植え込みの成長により眺望が阻害された箇所がある（**景観**）

霞ヶ関官庁街や丸の内オフィス街が水面に写る**夜景が美しい**。（**景観**）

外苑濠の中でも分水嶺を挟んで半蔵濠とともに**最上流に位置し、浄化施設からの処理水の放流先**となっている。**水質は外苑濠の中でも比較的良好**である。（**水質**）

ブルーギル等が侵入していない濠であり、沈水植物の生育も見られ、比較的良好な生物生息環境を維持している。堤塘の草地も豊かな生物生息環境となる可能性がある。（**生物**）

● 平面図・写真



● 濠の現状 (H22.3 時点)

【諸元】(桜田濠全体)

全長(m)	面積(㎡)	平均濠幅(m)	水深(m)	湛水量(m³)	水面標高(TP・m)
1,450	96,780	67	1.6	152,000	3.82

【景観】

景観要素の分類	歴史的・文化的	水と緑	都市
濠自身の景観要素	石垣・堤塘	濠水面・堤塘草花・石垣上の樹木	—
濠周囲の景観要素	桜田門・半蔵門	街路樹	周囲のビル群・皇居外周の歩道、車道、国会議事堂
主な視点場	沿岸車歩道(特に三宅坂周辺)・桜田門前・半蔵門前		

【水質】(桜田濠全体)

pH*1	懸濁物質(mg/L)*1	クロロフィルa(μg/L)*1	大腸菌群数(MPN/mL)*1	溶存酸素(mg/L)*1
8.6 (8.7)*2	5.9 (8.0)*2	14.0 (25.8)*2	6.9 (15.3)*2	11.0 (9.3)*2
COD(mg/L)*1	透明度(m)*1	T-N(mg/L)*1	T-P(mg/L)*1	アオコ発生頻度*3
5.7 (8.2)*2	1.29 (1.00)*2	0.69 (0.59)*2	0.02 (0.03)	A

*1: H12～H21 定期水質調査結果の全平均 (「-」: 調査実施なし), *2: ()内…H12～H21 定期水質調査結果の各年 8 月値平均 (「-」: 調査実施なし)
*3: アオコ観測調査 135 日(H21.6.27～H21.11.11)中の発生日数 10 日以下:A、11～20 日:B、21 日以上:C

【生き物】(桜田濠全体、全出現種: 巻末資料参照)

	出現種 ()内: 最終確認年度
希少種	【魚 類】ジュズカケハゼ(H20)*ナマス(H20)*7・ウキゴリ(H20)*7・ヌマチチブ(H20)*8 【植 物】ツツトモ(H19)*4・エビモ(H19)*11
特定外来生物	確認なし

*4: 絶滅危惧Ⅱ類(環境省 RL), *5: 準絶滅危惧(環境省 RL), *6: A ランク(東京都 RL(区部)), *7: B ランク(東京都 RL(区部)), *8: C ランク(東京都 RL(区部))
*9: A ランク(東京都 RL(東部)), *10: B ランク(東京都 RL(東部)), *11: C ランク(東京都 RL(東部))

【利用】

利用形態	散策・ジョギング・周辺オフィス勤務
------	-------------------

● 管理方針(各濠の特筆事項)

- ・堤塘の草地は、堤塘草花の保全と堤塘の美観維持のため、定期的な草刈りを行うとともに、草地の生物の生息・生育への配慮について検討を行う。（**景観**）
- ・歩道際の植栽は、植え込みや柵などを活用して安全性（濠への転落防止機能）を保持しつつ、濠への眺望を確保できるように管理する。（**景観**）
- ・外苑濠で最上流に位置し、また外苑濠の中でも豊かな生物層を持つことから、外来生物の侵入・繁殖の防止を重点的に行う。（**生き物**）

半蔵濠

～桜の木々の間から水面をはるかに見下ろす濠～

●濠の特性

皇居、半蔵門と隣接しているため、**象徴性の高い濠である**。(象徴性・景観)
水面の眺望は樹木に遮られ、あまりない。堤塘の草地は都心では貴重なもので、四季折々に咲く**堤塘の草花**が風物詩として人の目を楽しませている。(景観)
外苑濠の中でも分水嶺を挟んで桜田濠とともに**最上流に位置し、浄化施設からの処理水の放流先**になっている。**水質は外苑濠の中で比較的良好である**。(水質)
千鳥ヶ淵公園から**濠水面への眺望は、公園の樹木によって制限**されている。(景観)
水質が比較的良好で、ブルーギル等が侵入していない濠であり、比較的良好な生物の生息環境を維持している(生物)。

●平面図・写真



●濠の現状 (H22.3 時点)

【諸元】

全長(m)	面積(m ²)	平均濠幅(m)	水深(m)	湛水量(m ³)	水面標高(TP・m)
435	22,244	5	0.9	20,000	15.98

【景観】

景観要素の分類	歴史的・文化的	水と緑	都市
濠自身の景観要素	石垣・堤塘	濠水面・堤塘草花・石垣上の樹木	—
濠周囲の景観要素	半蔵門	千鳥ヶ淵公園の樹木(特にサクラ)	周囲のビル群・皇居外周の歩道、車道
主な視点場	半蔵門前・千鳥ヶ淵公園・千鳥ヶ淵公園の展望デッキ・千鳥ヶ淵交差点横		

【水質】

pH ^{*1}	懸濁物質(mg/L) ^{*1}	クロロフィルa(μg/L) ^{*1}	大腸菌群数(MPN/mL) ^{*1}	溶存酸素(mg/L) ^{*1}
8.6 (9.2) ^{*2}	10.3 (17.5) ^{*2}	25.5 (54.7) ^{*2}	5.2 (11.5) ^{*2}	11.3 (10.7) ^{*2}
COD(mg/L) ^{*1}	透明度(m) ^{*1}	T-N(mg/L) ^{*1}	T-P(mg/L) ^{*1}	アオコ発生頻度 ^{*3}
8.1 (13.1) ^{*2}	0.84 (0.64) ^{*2}	0.78 (0.81) ^{*2}	0.05 (0.05) ^{*2}	—

*1: H12～H21 定期水質調査結果の全平均 (「-」: 調査実施なし), *2: ()内…H12～H21 定期水質調査結果の各年8月値平均 (「-」: 調査実施なし)

*3: アオコ観測調査 135 日(H21.6.27～11.11)中の発生日数 10 日以下:A、11～20 日:B、21 日以上:C

【生き物】(全出現種: 巻末資料参照)

	出現種 ()内: 最終確認年度
希少種	【魚 類】ジュス・カケハセ ^{(H20)*8} ・ナマス ^{(H20)*7} ・ウキゴリ ^{(H20)*7}
特定外来生物	確認なし

*4: 絶滅危惧Ⅱ類(環境省 RL), *5: 準絶滅危惧(環境省 RL), *6: A ランク(東京都 RL(区部)), *7: B ランク(東京都 RL(区部)), *8: C ランク(東京都 RL(区部))

*9: A ランク(東京都 RL(東部)), *10: B ランク(東京都 RL(東部)), *11: C ランク(東京都 RL(東部))

【利用】

利用形態	散策・ジョギング・花見(春)
------	----------------

●管理方針(各濠の特筆事項)

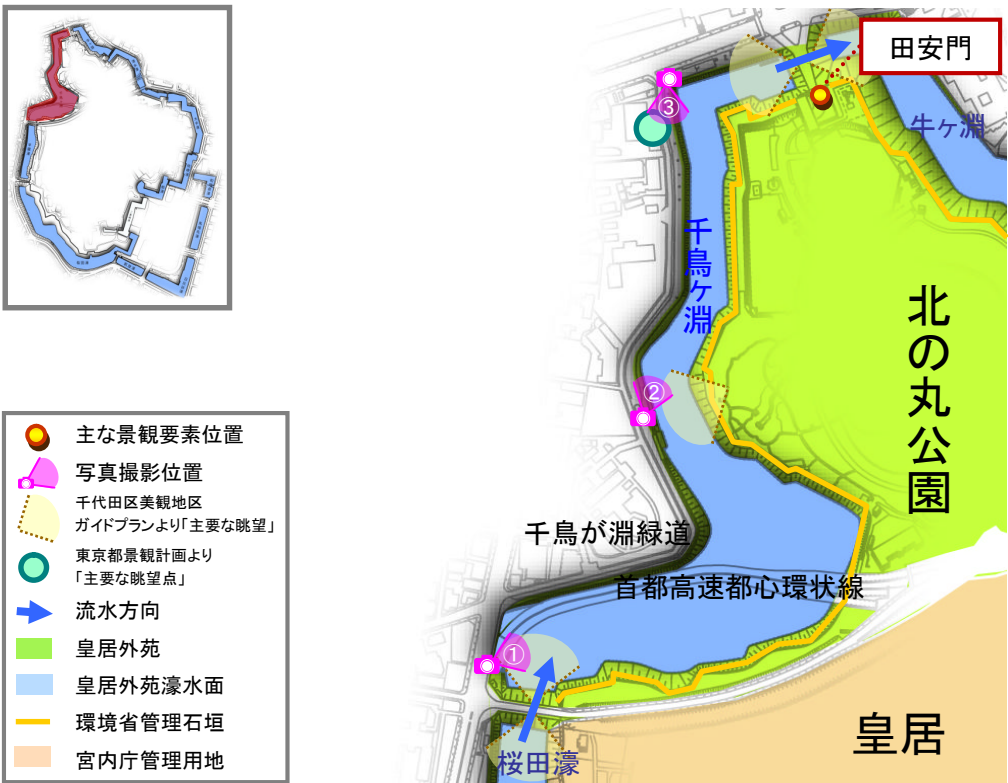
- ・堤塘の草地は、堤塘草花の保全と堤塘の美観維持のため、定期的な草刈りを行うとともに、草地の生物生息・生育へのための配慮について検討を行う。(景観)
- ・外苑濠の最上流部に位置し、他の濠への水量の供給源であることから、良好な水質の保全および外来生物の侵入・繁殖の防止を重点的に行う。(水質・生物)

千鳥ヶ淵 ～ボートで水面に近づける、緑豊かな桜の名所の濠～

● 濠の特性

田安門周辺が江戸城の面影を残している。(歴史・景観)
周辺地区とともに多くの桜が植栽され、春は花見客で賑わう。一方、ソメイヨシノの老齢化が進んでいる。(利用・景観)
外苑濠で唯一ボート乗り場があるなど、各種利用が盛んである。(利用)
東京都下水道からの流入によって外苑濠の中で最も水質汚濁が進んでおり、アオコの大量発生も見られ、皇居外苑の象徴性を損なうおそれが生じている。(象徴・景観・水質)
厚く堆積した底泥からの栄養塩の溶出が水質悪化に寄与している。(水質)
石垣には天然記念物であるヒカリゴケが生育している。(生物)
ブルーギル等は侵入していない。(生物)

● 平面図・写真



● 濠の現状 (H22.3 時点)

【諸元】

全長(m)	面積(m ²)	平均濠幅(m)	水深(m)	湛水量(m ³)	水面標高(TP・m)
992	66,521	67	1.0	68,000	15.98

【景観】

景観要素の分類	歴史的・文化的	水と緑	都市
濠自身の景観要素	石垣・堤塘	濠水面・堤塘草花・石垣上の樹木(特に桜)	—
濠周囲の景観要素	田安門	千鳥ヶ淵緑道の樹木(特に桜)・千鳥ヶ淵緑道の遊歩道	周囲のビル群・ボートとボート乗り場、首都高速道路
主な視点場	千鳥ヶ淵緑道・ボート乗り場上の展望デッキ・ボート上・田安門前		

【水質】

pH ^{*1}	懸濁物質(mg/L) ^{*1}	クロロフィルa(μg/L) ^{*1}	大腸菌群数(MPN/mL) ^{*1}	溶存酸素(mg/L) ^{*1}
8.8 (9.4) ^{*2}	28.1 (41.1) ^{*2}	105.9 (182.1) ^{*2}	43.0 (46.6) ^{*2}	11.0 (10.5) ^{*2}
COD(mg/L) ^{*1}	透明度(m) ^{*1}	T-N(mg/L) ^{*1}	T-P(mg/L) ^{*1}	アオコ発生頻度 ^{*3}
16.3 (23.2) ^{*2}	0.48 (0.37) ^{*2}	2.2 (2.56) ^{*2}	0.22 (0.20) ^{*2}	C

*1: H12～H21 定期水質調査結果の全平均 (「-」: 調査実施なし), *2: ()内…H12～H21 定期水質調査結果の各年8月値平均 (「-」: 調査実施なし)
*3: アオコ観測調査 135 日(H21.6.27～11.11)中の発生日数 10 日以下:A、11～20 日:B、21 日以上:C

【生き物】(全出現種: 巻末資料参照)

	出現種 ()内: 最終確認年度
希少種	【鳥 類】ダイサギ ^{(H16)*8} 【爬虫類】クサガメ(H19) ^{*8} ・スッポン(H19) ^{*8} ・ヤモリ(H19) ^{*8} 【両生類】アズマヒキガエル(H19) 【魚 類】シス [*] カケハゼ [*] (H20) ウキコリ(H20) ^{*7} ・ヌマチチブ ^{*8} 【昆虫類】アオモンイトトンボ(H19) ^{*8} ・ウチワヤンマ(H19) ^{*8} ・オヤマトンボ(H19) ^{*8} ・ショウジョウトンボ(H19) ^{*8} ・チョウトンボ(H19) ^{*8} 【植 物】ミクリ(H19) ^{*9} ・アシカキ ^{*9} ・ネコヤナギ ^{*11} ・サクラタデ ^{*10}
特定外来生物	【両生類】ウシガエル(H19)

*4: 絶滅危惧Ⅱ類(環境省 RL), *5: 準絶滅危惧(環境省 RL), *6: A ランク(東京都 RL(区部)), *7: B ランク(東京都 RL(区部)), *8: C ランク(東京都 RL(区部))
*9: A ランク(東京都 RL(東部)), *10: B ランク(東京都 RL(東部)), *11: C ランク(東京都 RL(東部))

【利用】

利用形態	散策・ジョギング・ボート・花見(春)・灯篭流し(夏)
------	----------------------------

● 管理方針(各濠の特筆事項)

・全濠の中でもアオコ発生量・頻度が高く、またボートで水面に接近できるため、水面のアオコやゴミ、落葉の除去は重点的に行う。(象徴・景観・水質)
・ソメイヨシノの更新期が近づいているため、今後の桜の植栽管理については、千代田区や関連団体との調整を図り、方針を検討する必要がある。(景観)
・全濠中最も水質汚濁が進んでいるため、水質改善対策を最優先に進める。(水質)
・各種利用が盛んな濠ではあるが、外苑濠の持つ象徴空間という特性に配慮し、適切な範囲に規定する。(利用)
・ヒカリゴケの保全のため、適切な生育環境の維持管理を行う。(生物)
・外来生物の侵入防止に努める。(生物)

牛ヶ淵 ～水草が水面に広がる緑に富んだ濠～

● 濠の特性

田安門、清水門が江戸城の歴史性を感じさせる。(歴史・景観)

沿道の樹木や建築物によって、水面への眺望が制限されている。(景観)

濠周縁にはサクラが数多く生育している。(景観)

千鳥ヶ淵からの流入水により、水質が悪化している。(水質)

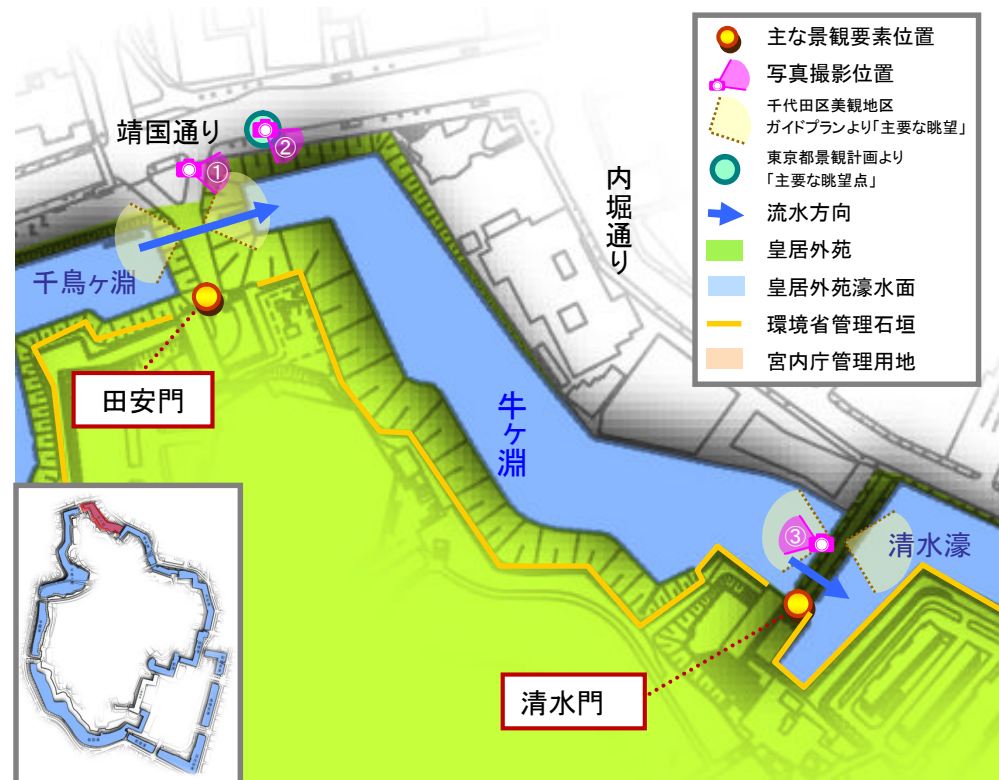
自然排水などの関係から、現状で濠の干し上げを実施できる唯一の濠である。
(水質・生物)

ヘイケボタルやベニイトトンボなどの水辺に依存する様々な生物が生息している。

一方、ウシガエル、アメリカザリガニなどの外来生物も生息している。(生物)

全濠の中でもハス・ヒシなどの水生植物の繁茂が著しい。水生植物の繁茂の程度や種構成は、年による変動が大きい。(景観・生物)

● 平面図・写真



● 濠の現状 (H22.3 時点)

【諸元】

全長(m)	面積(m ²)	平均濠幅(m)	水深(m)	湛水量(m ³)	水面標高(TP・m)
380	16,277	43	1.5	25,000	4.17

【景観】

景観要素の分類	歴史的・文化的	水と緑	都市
濠自身の景観要素	石垣・堤塘	濠水面・堤塘草花・石垣上の樹木(特にサクラ)・水生植物	—
濠周囲の景観要素	田安門・清水門	街路樹	周囲のビル群・武道館
主な視点場	田安門前・清水門前		

【水質】

pH*1	懸濁物質(mg/L)*1	クロロフィルa(μg/L)*1	大腸菌群数(MPN/mL)*1	溶存酸素(mg/L)*1
8.4 (8.5)*2	16.1 (26.7)*2	52.4 (92.7)*2	17.2 (30.6)*2	10.6 (7.7)*2
GOD(mg/L)*1	透明度(m)*1	T-N(mg/L)*1	T-P(mg/L)*1	アオコ発生頻度*3
11.3 (16.4)*2	0.77 (0.65)*2	1.34(1.22)*2	0.09 (0.10)*2	C

*1: H12～H21 定期水質調査結果の全平均 (「-」: 調査実施なし), *2: ()内…H12～H21 定期水質調査結果の各年 8 月値平均 (「-」: 調査実施なし)

*3: アオコ観測調査 135 日(H21.6.27～11.11)中の発生日数 10 日以下:A、11～20 日:B、21 日以上:C

【生き物】(全出現種: 巻末資料参照)

	出現種 ()内: 最終確認年度
希少種	【鳥 類】ダイサギ(H16)*8 【爬虫類】クサガメ(H19)*8・スッポン(H19)*8・ヤモリ(H18)*8・アオダイショウ(H18)*7・シマヘビ(H16)*6 【両生類】アズマヒキガエル(H19)*8 【魚 類】・ジュズカケハゼ(H20)・キンブナ(S50)*7・ウキコリ(H20)*7・ヌマチチブ(H12)*8 【昆虫類】ベニイトトンボ(H19)*4*6・ヘイケボタル*6・コオイムシ(H19)*5・ホツケミスミ(H19)*5・ムスジイトトンボ(H19)*7・キイトトンボ(H17)*7・アオモンイトトンボ(H19)*8・オアオイトトンボ(H19)*7・ウチワヤンマ(H19)*8・オオヤマトンボ(H19)*8・ショウジョウトンボ(H19)*8・チョウトンボ(H19)*8・ナツアカネ(H19)*8・マメガムシ(H19)*8 【植 物】ツツイトモ(H19【】)*4・エビモ(H19)*11・ササハモ(H19)*11
特定外来生物	【魚 類】オオクチバス(H14)・ブルーギル(H14)【甲殻類】アメリカザリガニ(H19)【両生類】ウシガエル(H19)【植 物】ホタンウキサ(H16)

*4: 絶滅危惧Ⅱ類(環境省 RL), *5: 準絶滅危惧(環境省 RL), *6: A ランク(東京都 RL(区部)), *7: B ランク(東京都 RL(区部)), *8: C ランク(東京都 RL(区部))

*9: A ランク(東京都 RL(東部)), *10: B ランク(東京都 RL(東部)), *11: C ランク(東京都 RL(東部))

【利用】

利用形態	散策・ジョギング・周辺オフィス勤務・水鳥観察・蓮の花観察・武道館利用・北の丸公園利用
------	--

● 管理方針(各濠の特筆事項)

・干し上げについては、外苑濠全体での水質改善効果や生物への影響を整理し、効果を検証した上で実施するか否かを判断する。(水質・生物)

・ヘイケボタル、ベニイトトンボなどの水生生物が安定して生息できる環境の保全を目指し、知見の集積や管理手法の検討を行う。

・水生植物については、通水性の確保、景観維持の観点から繁茂しすぎた水草の除去を当面継続しつつ、景観、水質、生物の生息環境の各側面から、適切な水生植物の管理のあり方を検討する。(水質・生物・景観)

・ウシガエルなどの外来種については、効果的な駆除の方法を検討しつつ、引き続き駆除を実施する。(生物)

・老齢化しているソメイヨシノについては、今後、関係者等とも連携の上で管理方針を整理する。(景観)

清水濠

～都市構造物と江戸城遺構が混在する、日本橋川とつながる濠～

●濠の特性

人と水面との距離が近く、見通しも良いため、**水面が人の目に付きやすい濠**である。(景観)

清水門、平川門などの江戸城の遺構が残る一方、首都高速や竹橋などの近代都市構造物が横断し、**新旧が入り混じった独特の景観**が形成されている。(景観)

牛ヶ淵方面から流下してくる水により、**水質が悪化**している。(水質)

本濠からの越流水は**日本橋川**に放流されている。(水質)

●平面図・写真



●濠の現状 (H22.3 時点)

【諸元】

全長(m)	面積(m ²)	平均濠幅(m)	水深(m)	湛水量(m ³)	水面標高(TP・m)
710	24,147	34	0.7	17,000	1.87

【景観】

景観要素の分類	歴史的・文化的	水と緑	都市
濠自身の景観要素	石垣	濠水面・石垣上の樹木	—
濠周囲の景観要素	清水門・平川橋・平川門	街路樹・公園	周囲のビル群・皇居外周の歩道、車道・首都高速道路・竹橋
主な視点場	沿岸車歩道・清水門前・平川橋・清水濠まちかど庭園・竹橋		

【水質】

pH ^{*1}	懸濁物質(mg/L) ^{*1}	クロロフィルa(μg/L) ^{*1}	大腸菌群数(MPN/mL) ^{*1}	溶存酸素(mg/L) ^{*1}
8.4 (8.9) ^{*2}	41.5 (58.9) ^{*2}	102.7 (269.7) ^{*2}	26.4 (36.2) ^{*2}	10.2 (10.1) ^{*2}
COD(mg/L) ^{*1}	透明度(m) ^{*1}	T-N(mg/L) ^{*1}	T-P(mg/L) ^{*1}	アオコ発生頻度 ^{*3}
14.4 (27.3) ^{*2}	0.32 (0.25) ^{*2}	1.80 (2.68) ^{*2}	0.18 (0.24) ^{*2}	C

*1: H12～H21 定期水質調査結果の全平均 (「-」: 調査実施なし), *2: ()内…H12～H21 定期水質調査結果の各年 8 月値平均 (「-」: 調査実施なし)

*3: アオコ観測調査 135 日(H21.6.27～11.11)中の発生日数 10 日以下:A、11～20 日:B、21 日以上:C

【生き物】(全出現種: 巻末資料参照)

希少種	出現種 ()内: 最終確認年度
【魚 類】ジュズカケハゼ(H20) ^{*8} ウキコリ(H20) ^{*7} ヌマチチブ(H20) ^{*8}	
特定外来生物	【魚 類】オオクチバス(H17)・ブルーギル(H20) 【両生類】ウシガエル(H19)

*4: 絶滅危惧Ⅱ類(環境省 RL), *5: 準絶滅危惧(環境省 RL), *6: A ランク(東京都 RL(区部)), *7: B ランク(東京都 RL(区部)), *8: C ランク(東京都 RL(区部))

*9: A ランク(東京都 RL(東部)), *10: B ランク(東京都 RL(東部)), *11: C ランク(東京都 RL(東部))

【利用】

利用形態	散策・ジョギング・周辺オフィス勤務
------	-------------------

●管理方針(各濠の特筆事項)

・千鳥ヶ淵方面からアオコの流入があり、水面に人の注目を受けやすく、また越流水を日本橋川に放流していることから、アオコをはじめゴミ、落葉等の除去は重点的に行う。(水質・景観)

・ブルーギル等の外来魚の駆除を引き続き実施する。(生物)

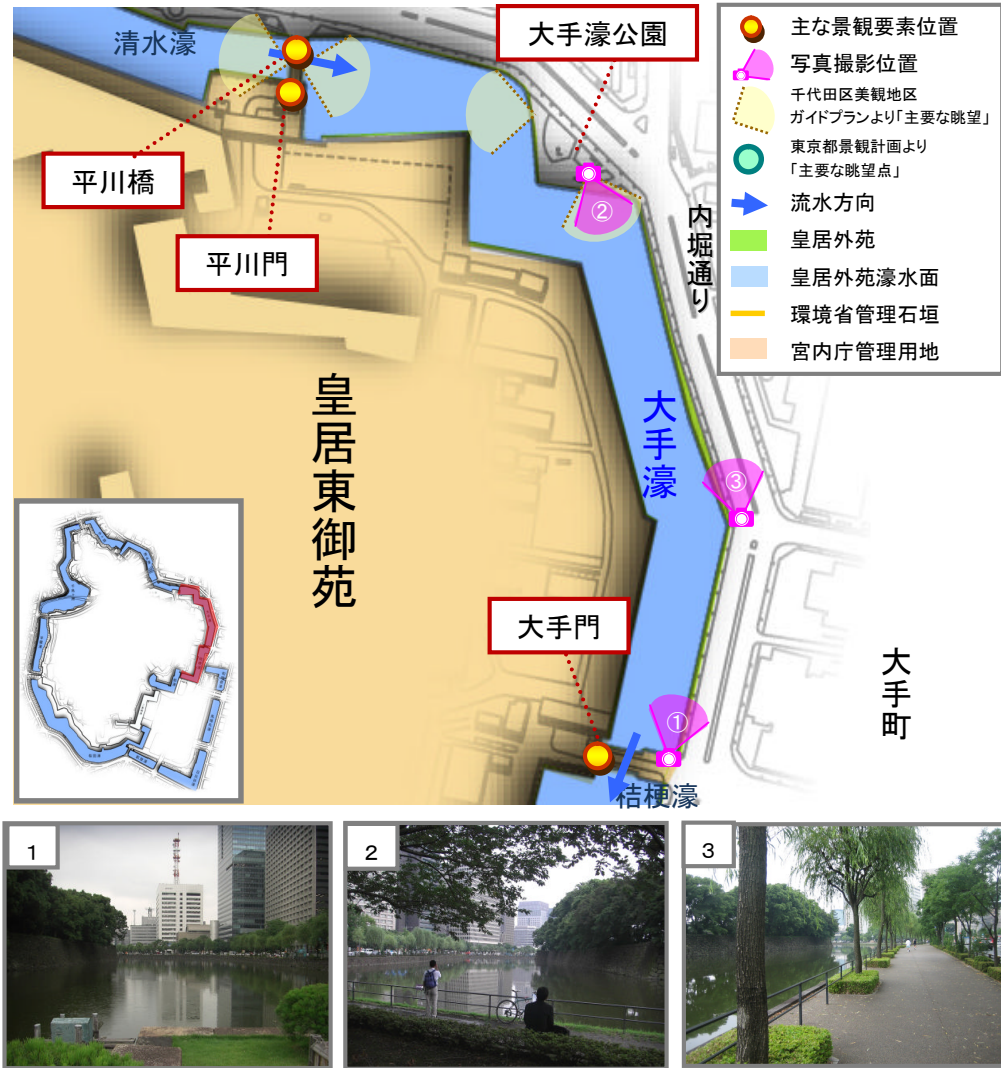
大手濠

～大手町オフィス街に面し、視界に水面が大きく広がる濠～

● 濠の特性

皇居東御苑の入り口にあたり、比較的**象徴性が高い**。(象徴・景観)
大手門や平川門があるため、**歴史性が高い**。(歴史・景観)
東御苑の入り口に接しているため人通りが多く、大手濠公園や大手門前などの良好なビューポイントがある。その上、人と水面との距離が近く、見通しも良いため、**人の目に付きやすい濠**である。(景観)
桔梗濠との接続部は、構造上、濠水の通水が阻害されている。(水質)

● 平面図・写真



● 濠の現状 (H22.3 時点)

【諸元】

全長(m)	面積(m ²)	平均濠幅(m)	水深(m)	湛水量(m ³)	水面標高(TP・m)
635	28,541	45	1.1	31,000	1.87

【景観】

景観要素の分類	歴史的・文化的	水と緑	都市
濠自身の景観要素	石垣	濠水面・石垣上の樹木	—
濠周囲の景観要素	平川門・平川橋・大手門	街路樹・公園	周囲のビル群・皇居外周の歩道、車道、大手濠公園
主な視点場	沿岸車歩道・平川橋・大手門前		

【水質】

pH ^{*1}	懸濁物質(mg/L) ^{*1}	クロロフィルa(μg/L) ^{*1}	大腸菌群数(MPN/mL) ^{*1}	溶存酸素(mg/L) ^{*1}
7.9 (8.4) ^{*2}	17.6 (20.0) ^{*2}	37.2 (57.0) ^{*2}	39.3 (100.0) ^{*2}	10.2 (10.3) ^{*2}
COD(mg/L) ^{*1}	透明度(m) ^{*1}	T-N(mg/L) ^{*1}	T-P(mg/L) ^{*1}	アオコ発生頻度 ^{*3}
9.7 (9.8) ^{*2}	0.5 (0.5) ^{*2}	1.45 (0.75) ^{*2}	0.1 (0.08) ^{*2}	B

*1: H12～H21 定期水質調査結果の全平均 (「-」: 調査実施なし), *2: ()内…H12～H21 定期水質調査結果の各年8月値平均 (「-」: 調査実施なし)

*3: アオコ観測調査 135 日(H21.6.27～11.11)中の発生日数 10 日以下:A、11～20 日:B、21 日以上:C

【生き物】(全出現種: 巻末資料参照)

	出現種 ()内: 最終確認年度
希少種	【魚 類】ジュズカケハゼ(H20)*・キンブナ(S50)* ⁷ ・ウナギ(H20)* ⁷ ・ナマス(H12)* ⁷ ・ウキコリ(H20)* ⁷ ・ヌマチチブ(H20)* ⁸
特定外来生物	【魚 類】オクチバス(H19)・ブルーギル(H20)【甲殻類】アメリカザリガニ(H19)【両生類】ウシガエル(H19)

*4: 絶滅危惧Ⅱ類(環境省 RL), *5: 準絶滅危惧(環境省 RL), *6: A ランク(東京都 RL(区部)), *7: B ランク(東京都 RL(区部)), *8: C ランク(東京都 RL(区部))

*9: A ランク(東京都 RL(東部)), *10: B ランク(東京都 RL(東部)), *11: C ランク(東京都 RL(東部))

【利用】

利用形態	観光・散策・ジョギング・周辺オフィス勤務・水鳥観察
------	---------------------------

● 管理方針(各濠の特筆事項)

- ・水面は人の注目を受けやすいため、アオコ、ゴミ、落葉等の除去は重点的に行う。(景観)
- ・桔梗濠との接続部は、通水性を確保するために、閉塞の原因となる落葉やゴミの除去を特に重点的に行うとともに、濠間の施設の改修等について検討を行う。(水質)
- ・ブルーギル等の外来魚の駆除を引き続き行う。(生物)

和田倉濠

～コンパクトながらも、多様な側面を併せ持つ濠～

● 濠の特性

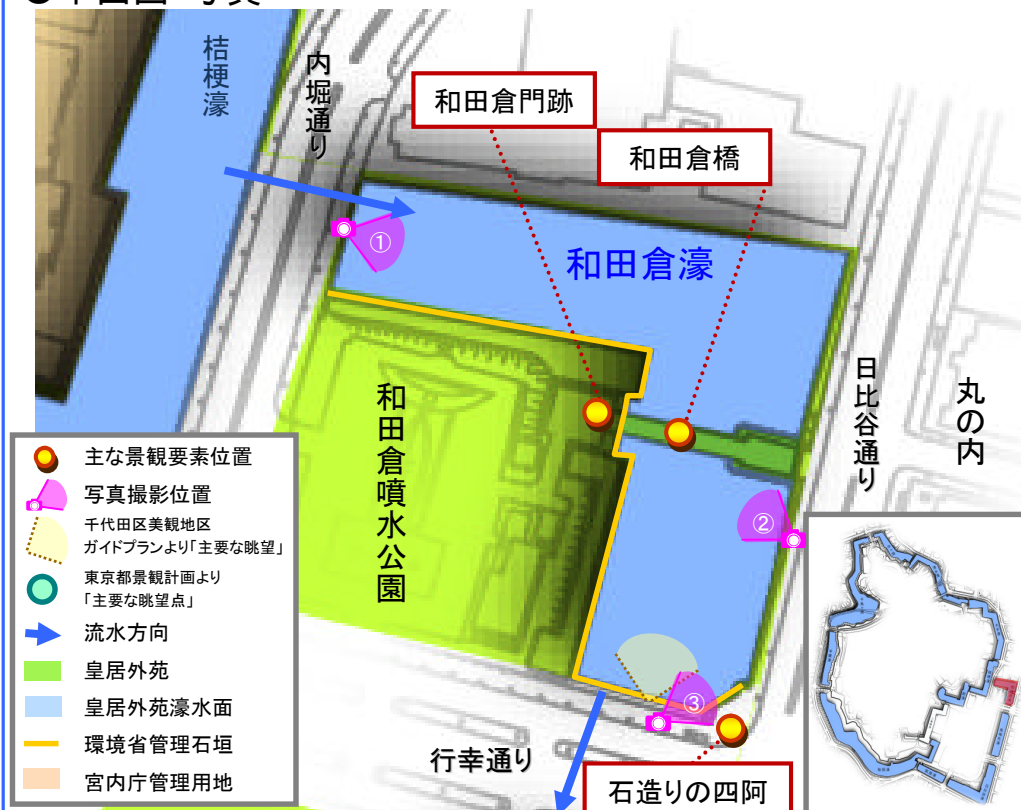
丸の内オフィス街に面するとともに、和田倉門・和田倉橋によってもたらされる歴史性の高さをもち、また象徴性を感じさせる和田倉噴水公園が隣接するなど、**小さいながらも様々な要素が入り交じる濠である。**(景観)

丸の内オフィス街が水面に写る**夜景が美しい。**(景観)

ブルーギルなどの外来魚対策が重点的に行われている濠である。(生物)

水鳥のバードウォッチングの利用が盛んである。また、地域のイベントに利用されている。(生き物・利用)

● 平面図・写真



● 濠の現状 (H22.3 時点)

【諸元】

全長(m)	面積(m ²)	平均濠幅(m)	水深(m)	湛水量(m ³)	水面標高(TP・m)
280	13,416	48	1.2	16,000	1.43

【景観】

景観要素の分類	歴史的・文化的	水と緑	都市
濠自身の景観要素	石垣	濠水面・石垣上の樹木	—
濠周囲の景観要素	和田倉門跡・和田倉橋	街路樹・行幸通りのイチョウ	周囲のビル群・皇居外周の歩道、車道
主な視点場	沿岸車歩道・和田倉橋上		

【水質】

pH ^{*1}	懸濁物質(mg/L) ^{*1}	クロロフィルa(μg/L) ^{*1}	大腸菌群数(MPN/mL) ^{*1}	溶存酸素(mg/L) ^{*1}
8.5 (8.8) ^{*2}	15.2 (14.0) ^{*2}	20.5 (15.0) ^{*2}	55.5 (70.0) ^{*2}	8.9 (10.3) ^{*2}
COD(mg/L) ^{*1}	透明度(m) ^{*1}	T-N(mg/L) ^{*1}	T-P(mg/L) ^{*1}	アオコ発生頻度 ^{*3}
7.8 (6.6) ^{*2}	0.62 (0.7) ^{*2}	0.66 (0.68) ^{*2}	0.05 (0.03) ^{*2}	A

*1: H12～H21 定期水質調査結果の全平均 (「-」: 調査実施なし), *2: ()内…H12～H21 定期水質調査結果の各年8月値平均 (「-」: 調査実施なし)

*3: アオコ観測調査 135 日(H21.6.27～11.11)中の発生日数 10 日以下:A、11～20 日:B、21 日以上:C

【生き物】(全出現種: 巻末資料参照)

	出現種 ()内: 最終確認年度
希少種	【魚 類】ジュズカケハゼ [*] (H20) [*] ・ウキゴリ [*] (H20) [*] ・ヌマチチブ [*] (H20) [*]
特定外来生物	【魚 類】オオクチバス(H19)・ブルーギル(H20)

*4: 絶滅危惧Ⅱ類(環境省 RL), *5: 準絶滅危惧(環境省 RL), *6: A ランク(東京都 RL(区部)), *7: B ランク(東京都 RL(区部)), *8: C ランク(東京都 RL(区部))

*9: A ランク(東京都 RL(東部)), *10: B ランク(東京都 RL(東部)), *11: C ランク(東京都 RL(東部))

【利用】

利用形態	皇室関係行事(信任状捧呈式馬車列その他行幸通りの利用など)・観光・散策・ジョギング・周辺オフィス勤務・水鳥観察・イルミネーションイベント
------	--

● 管理方針(各濠の特筆事項)

- ・水面は人の注目を受けやすいため、アオコ、ゴミ、落葉等の除去は重点的に行う。(景観)
- ・石垣上の樹木については、連続的な樹冠ラインの維持に配慮しつつ、根の生長による石垣への影響を防止するため、樹木管理を段階的に実施する。(景観)
- ・濠を利用したイベント等の開催については、水鳥の生息を妨げないように配慮する。(生物・利用)
- ・ブルーギル等の外来魚の駆除を引き続き行う。(生物)

～丸の内オフィス街に面する、都市の中の濠～

水鳥のバードウォッチングの利用が盛んである。また、地域のイベントに利用されている。(生物・利用)

●平面図・写真



●濠の現状(H22.3 時点)

【諸元】

全長(m)	面積(m ²)	平均濠幅(m)	水深(m)	湛水量(m ³)	水面標高(TP・m)
350	20,026	57	1.4	28,000	1.43

【景觀】

景観要素の分類	歴史的・文化的	水と緑	都市
濠自身の景観要素	石垣	濠水面・石垣上の樹木	—
濠周囲の景観要素	—	街路樹・行幸通りのイチヨウ	周囲のビル群・皇居外周の歩道、車道
主な視点場	沿岸車歩道		

【水質】^{*4}

pH ^{*1}	懸濁物質 (mg/L) ^{*1}	クロロフィルa (μg/L) ^{*1}	大腸菌群数 (MPN/mL) ^{*1}	溶存酸素 (mg/L) ^{*1}
8.3 (8.3) ^{*2}	17.8 (21.6) ^{*2}	50.5 (75.0) ^{*2}	34.0 (37.0) ^{*2}	8.6 (8.9) ^{*2}
COD (mg/L) ^{*1}	透明度 (m) ^{*1}	T-N (mg/L) ^{*1}	T-P (mg/L) ^{*1}	アオコ発生頻度 ^{*3}
8.7 (8.7) ^{*2}	0.52 (0.5) ^{*2}	0.85 (1.05) ^{*2}	0.09 (0.09) ^{*2}	A

*1:H12～H21 定期水質調査結果の全平均（「-」:調査実施なし）、*2:()内…H12～H21 定期水質調査結果の各年8月値平均（「-」:調査実施なし）

*3:アオコ観測調査 135 日(H21.6.27~11.11)中の発生日数 10 日以下:A、11~20 日:B、21 日以上:C、 *4:データ存在 H21 のみ

【生物】(全出現種: 卷末資料参照)

	出現種 ()内:最終確認年度
希少種	【魚 類】シウスカケハゼ(H20)*ウキゴリ(H20)*7・ヌマチチブ(H20)*8
特定外来生物	【魚 類】オオクチバス(H17)・ブルーギル(H20)

*4:絶滅危惧Ⅱ類(環境省 RL), *5:準絶滅危惧(環境省 RL), *6:A ランク(東京都 RL(区部)), *7:B ランク(東京都 RL(区部)), *8:C ランク(東京都 RL(区部))

*9:A ランク(東京都 RL(東部)), *10:B ランク(東京都 RL(東部)), *11:C ランク(東京都 RL(東部))

【利用】

利用形態	皇室関係行事(信任状捧呈式馬車列その他行幸通りの利用など)・観光・散策・ジョギング・周辺オフィス勤務・水鳥観察・イルミネーションイベント
------	--

● 管理方針(各濠の特筆事項)

【景觀】

- ・水面は人の注目を受けやすいため、アオコ、ゴミ、落葉等の除去は重点的に行う。(景観)

- ・石垣上の樹木については、連続的な樹冠ラインの維持に配慮しつつ、根の生長による石垣への影響を防止するため、樹木管理を段階的に実施する。(景観)

・濠を利用したイベント等の開催については、水鳥の生息を妨げないように配慮する。(生物・利用)

- ・ブルーギル等の外来魚の駆除を引き続き行う。(生物)

日比谷濠

～日比谷公園と丸の内オフィス街に隣接し、夜景が水面に映える濠～

● 濠の特性

人と水面との距離が近く、見通しも良いため、**水面が人の目に付きやすい濠**である。(景観)

都市と一体となった**都市的景観**の構成要素としての性質が強く、丸の内オフィス街が水面に写る**夜景が美しい**。(景観)

ブルーギルなどの**外来魚対策を重点的に行っている**濠である。(生物)

全濠の中で**最下流部に位置**するため、上流から流れてくる**アオコが集まりやすい**。(景観)

浄化施設の取水口があるため、**浄化施設の運用による水位の上下変動**があり、そのことによる景観や生き物に配慮する必要がある。(景観・生物)

水鳥のバードウォッチングの利用が盛んである。また、**地域のイベント**に利用されている。(生き物・利用)

● 平面図・写真



● 濠の現状 (H22.3 時点)

【諸元】

全長(m)	面積(m ²)	平均濠幅(m)	水深(m)	湛水量(m ³)	水面標高(TP・m)
620	35,884	58	1.4	49,000	1.43

【景観】

景観要素の分類	歴史的・文化的	水と緑	都市
濠自身の景観要素	石垣	濠水面・石垣上の樹木 () ^{*2}	—
濠周囲の景観要素	—	街路樹・公園(日比谷公園)	周囲のビル群・皇居外周の歩道、車道
主な視点場	沿岸車歩道・日比谷公園		

【水質】

pH ^{*1}	懸濁物質(mg/L) ^{*1}	クロロフィルa(μg/L) ^{*1}	大腸菌群数(MPN/mL) ^{*1}	溶存酸素(mg/L) ^{*1}
8.5 (9.1) ^{*2}	15.8 (20.3) ^{*2}	45.5 (98.1) ^{*2}	16.4 (22.8) ^{*2}	10.3 (10.3) ^{*2}
COD(mg/L) ^{*1}	透明度(m) ^{*1}	T-N(mg/L) ^{*1}	T-P(mg/L) ^{*1}	アオコ発生頻度 ^{*3}
7.7 (12.1) ^{*2}	0.68 (0.54) ^{*2}	0.93 (1.18) ^{*2}	0.07 (0.07) ^{*2}	A

*1: H12～H21 定期水質調査結果の全平均 (「-」: 調査実施なし), *2: ()内…H12～H21 定期水質調査結果の各年 8 月値平均 (「-」: 調査実施なし)

*3: アオコ観測調査 135 日(H21.6.27～11.11)中の発生日数 10 日以下:A、11～20 日:B、21 日以上:C

【生き物】(全出現種: 巻末資料参照)

	出現種 ()内: 最終確認年度
希少種	【魚 類】ジュズカケハゼ(H20)ウナギ(H20) ^{*7} ・ナマス(H20) ^{*7} ・ウキゴリ(H20) ^{*7} ・ヌマチチブ(H20) ^{*8} 【爬虫類】スッポン(H19) ^{*8}
特定外来生物	【魚 類】オウチハス(H20)・ブルーギル(H20)

*4: 絶滅危惧Ⅱ類(環境省 RL), *5: 準絶滅危惧(環境省 RL), *6: A ランク(東京都 RL(区部)), *7: B ランク(東京都 RL(区部)), *8: C ランク(東京都 RL(区部))

*9: A ランク(東京都 RL(東部)), *10: B ランク(東京都 RL(東部)), *11: C ランク(東京都 RL(東部))

【利用】

利用形態	観光・散策・ジョギング・周辺オフィス勤務・水鳥観察・イルミネーションイベント
------	--

● 管理方針(各濠の特筆事項)

・外苑濠の最下流部であるためアオコが溜まりやすく、水面は人の注目を受けやすいため、アオコの除去を重点的に行う。(景観)

・石垣上の樹木については、連続的な樹冠ラインの維持に配慮しつつ、根の生長による石垣への影響を防止するため、樹木管理を段階的に実施する。景観)

・浄化施設の取水口があるため、安定した浄化施設の稼動のために、上流側の濠の水門操作を含めた適正な水位の管理を行う。(水質)

・濠を利用したイベント等の開催については、水鳥の生息を妨げないよう配慮する。(生き物・利用)

・ブルーギル等の外来魚の駆除を引き続き行う。(生物)

凱旋濠

～霞ヶ関に面し、桜田門がランドマークの小さな濠～

● 濠の特性

桜田門が濠の景観に歴史性を添えている。(歴史・景観)

人と水面との距離が近く、見通しも良いため、水面が人の目に付きやすい濠である。(景観)

桜田濠の水位が確保されているときは、桜田濠からの流入により清澄な水質が保たれるが、渇水期は桜田濠の水位低下により流入量が減少し、水質が悪化しやすい。(水質)

ブルーギルなどの外来魚対策を重点的に行っている濠である。(生物)

● 平面図・写真



● 濠の現状 (H22.3 時点)

【諸元】

全長(m)	面積(㎡)	平均濠幅(m)	水深(m)	湛水量(m³)	水面標高(TP・m)
240	11,695	49	1.9	23,000	2.85

【景観】

景観要素の分類	歴史的・文化的	水と緑	都市
濠自身の景観要素	石垣	濠水面・石垣上の樹木	—
濠周囲の景観要素	桜田門	街路樹	周囲のビル群・皇居外周の歩道、車道
主な視点場	沿岸車歩道・桜田門前		

【水質】*4

pH*1	懸濁物質(mg/L)*1	クロロフィルa(μg/L)*1	大腸菌群数(MPN/mL)*1	溶存酸素(mg/L)*1
8.3 (8.4)*2	6.3 (8.4)*2	4.5 (4.0)*2	49.0 (46.0)*2	7.7 (6.9)*2
COD(mg/L)*1	透明度(m)*1	T-N(mg/L)*1	T-P(mg/L)*1	アオコ発生頻度*3
6.7 (5.8)*2	1.08 (0.9)*2	0.51 (0.51)*2	0.03 (0.02)*2	A

*1: H12～H21 定期水質調査結果の全平均 (「-」: 調査実施なし), *2: ()内…H12～H21 定期水質調査結果の各年 8 月値平均 (「-」: 調査実施なし)
*3: アオコ観測調査 135 日(H21.6.27～11.11)中の発生日数 10 日以下:A, 11～20 日:B, 21 日以上:C, *4: データ存在 H21 のみ

【生き物】(全出現種: 巻末資料参照)

	出現種 ()内: 最終確認年度
希少種	【魚 類】シラスカケハゼ(H20)ナマス(H20)*7・ウキゴリ(H20)*7・ヌマチブ(H20)*8
特定外来生物	【魚 類】オオクチバス(H20)・ブルーギル(H20)

*4: 絶滅危惧Ⅱ類(環境省 RL), *5: 準絶滅危惧(環境省 RL), *6: A ランク(東京都 RL(区部)), *7: B ランク(東京都 RL(区部)), *8: C ランク(東京都 RL(区部))
*9: A ランク(東京都 RL(東部)), *10: B ランク(東京都 RL(東部)), *11: C ランク(東京都 RL(東部))

【利用】

利用形態	散策・ジョギング・周辺オフィス勤務・水鳥観察
------	------------------------

● 管理方針(各濠の特筆事項)

- ・水面は人の注目を受けやすいため、アオコ、ゴミ、落葉等の除去は重点的に行う。(景観)
- ・石垣上の樹木については、連続的な樹冠ラインの維持に配慮しつつ、根の生長による石垣への影響を防止するため、樹木管理を段階的に実施する。(景観)
- ・ブルーギル等の外来魚の駆除を引き続き行う。(生物)